

研究会報告 “AKARI, a light to illuminate the misty Universe”

尾 中 敬

〈東京大学大学院理学系研究科・天文学教室 〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1〉

2009年2月16日から19日にかけて、東京大学本郷キャンパス内において、「あかり」衛星の第一回国際研究会，“AKARI, a light to illuminate the misty Universe”を行いました。入学試験・卒業などの大学として一番忙しい時期にもかかわらず、国内から約80名、海外からもほぼ同数の、全体で約150名の研究者が安藤忠雄氏設計の真新しい情報学環・福武ホールに集い、暖冬のなか強運にも天候に恵まれ、活発な議論を4日間行いました。

「あかり」は欧州宇宙機構 (ESA) の協力のものと、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) が2006年2月に打ち上げた日本初の本格的な赤外線衛星です。国内の大学・研究所のほか、韓国およびヨーロッパの大学・研究所とも共同研究が進められているプロジェクトで、天文学の広い分野の進展に大きく貢献することが期待されています。2003年にNASAが打ち上げた天文台型の Spitzer 衛星に対し、中間赤外線から遠赤外線にかけての六つの波長バンドで全天サーベイを行うなど、連続した波長帯域とサーベイを中心にした観測を行ってきました。液体ヘリウムが消失した2007年8月以降も、機械式冷凍機による冷却により2-5ミクロンの近赤外域の観測を継続しています。今回の研

究会は、全天サーベイ点光源カタログの内部公開の時期とも重なり、最新の観測結果の報告が相次ぎました。太陽系天体に始まり、星生成、星間物質、近傍銀河から遠方の深宇宙探査、背景放射に至る広い分野について、Spitzer 観測のレビューも含めて、56件の口頭講演とほぼ同数のポスター発表があり、ヨーロッパの研究者からも公募観測結果などの興味深い発表がありました。

「あかり」のデータ解析は今がまさに佳境で今年中には全天サーベイ点光源カタログの一般公開も予定されています。今後も継続的に同様の国際研究会を開催していく予定です。

本研究会は、文部科学省グローバル COE プログラム (未来を拓く物理科学結集教育研究拠点、東京大学)、科学研究費補助金・特定領域研究「太陽系学惑星科学の展開」および、財団法人宇宙科学振興会からの支援をいただいています。また研究会は、JAXA・宇宙科学研究本部宇宙放射線シンポジウムとの共催となっており、JAXA・宇宙科学研究本部の赤外・サブミリ波天文学研究系の皆様をはじめ、多くの方にたいへんお世話になりました。



図1 東京大学・福武ホールでの講演の様子。



図2 レセプションの様子。